

キャンパス外観



建築家アントニン・レーモンドの精神が今も息づく、歴史と風格を感じさせる名古屋キャンパス。

体育館外観



曲線フォルムの傾斜した控え柱と打ち放しコンクリートと赤土色の塗装の組み合わせが、モダンでダイナミックな印象を与えている。

女性トイレ 洗面コーナー



洗面コーナーには化粧鏡を設置せず、対面にパウダーコーナーを設けることで、混雑緩和を図っている。パウダーコーナーの横には、身だしなみを確認できるように姿見も設置している。

男性トイレ 小便器コーナー



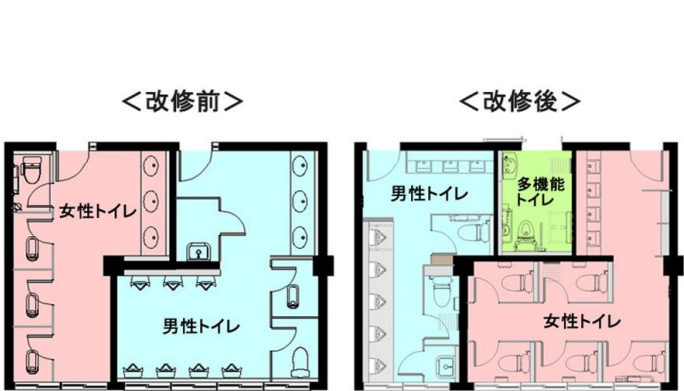
尿石の付着を抑制するジアテクト機能付きの壁掛式低リップタイプ小便器を採用。小便器の足元には、清掃性や防臭に配慮して尿の飛散による汚れやにおいを抑えるハイドロセラ・フロアPUを設置。

改修前トイレ



大便器ブースはすべて和式便器。タイル張りの壁・床で、湿式清掃を採用していた。

トイレ図面



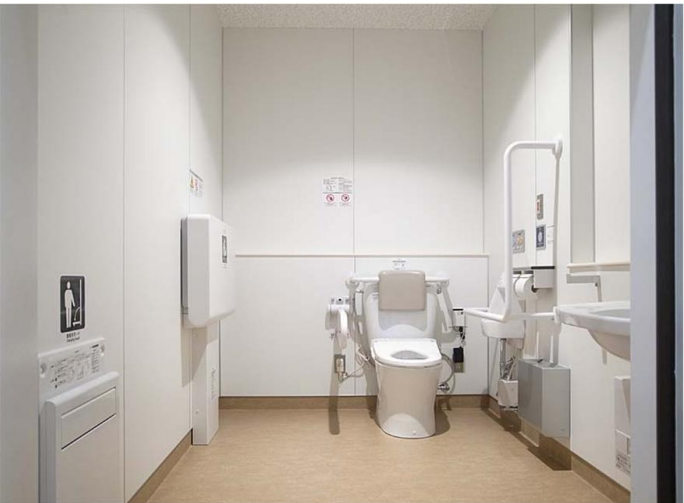
男女トイレの位置を入れ替え、女性トイレのスペースを拡大した。さらに、男女トイレの間に多目的トイレを新設した。

男性トイレ 大便器ブース



荷物配慮として、男女ともすべての大便器ブースにフックを取り付けている。また、大便器ブースの1ヶ所には着替え用としてフィッティングボードを設置している。

多目的トイレ



入学式などの式典に参加する保護者の利用や、体育館が災害避難所として使用される場合を想定し、さまざまな方に対応できるよう多目的トイレを設置。ベビーシートやフィッティングボードを完備している。

トイレ 入口



車いす使用者に配慮して、トイレ左側にスロープ付きの入口を新設。男女トイレを入れ替えたため、サインの掲示に加えてドア枠も色分けし、混乱を防いでいる。

女性トイレ 大便器コーナー



ダークブラウンが基調のシックで落ち着いた空間。すべて洋式便器とし、ウォシュレットを設置した。女性トイレの大便器ブースには緊急呼出ボタンを完備し、非常時や具合が悪くなったときなどに配慮している。

建築概要

名 称	南山大学名古屋キャンパス体育館
所 在 地	名古屋市昭和区山里町18
施 主	南山大学
設 計	清水建設株式会社
施 工	清水建設株式会社
竣 工 年 月	(改修)2012年10月

水まわりの特長

<建物の特徴>
南山大学名古屋キャンパスは、日本のモダニズム建築の父である建築家アントニン・レーモンドの設計で、1964年に完成した。キャンパス内の体育館も同じくレーモンドの設計で、1968年に完成。体育の授業や部活動だけでなく入学式や卒業式の会場として使われている。また、名古屋市から地域の避難所として指定されている。

<改修の経緯>
改修前のトイレは、「老朽化」「洋式便器がない」「においがする」などの問題を抱えていた。また、体育館は入学式などの式典の会場となるほか、災害避難所としての使用も考えられ、さまざまな方が利用できる「多目的トイレ」の設置が求められていたこともあり、トイレの改修を行った。

<トイレの特長>
多目的トイレを利用する車いす使用者に配慮し、トイレ近くにスロープ付きの入口を新設。また、近年女子学生が増えてきたこともあり、男女のトイレの位置を入れ替えて、女性トイレのスペースを拡大。パウダーコーナーや着替えのためのフィッティングボードを備えた大便器ブースを設置。そのほか男女トイレともすべて洋式便器を採用し、ウォシュレットを設置している。